

6. 計画の目標

5章の5.3の「公共交通の活性化及び再生に向けた取組みの方向性」を踏まえて、以下の2つの目標を掲げることとする。

<目 標>

目標1 広域的な周遊観光や地域住民の移動の足を担う公共交通網への再編と利便性向上

目標2 持続可能で安全・安心な運送サービスに向けた設備・体制の整備

6.1. 広域的な周遊観光や地域住民の移動の足を担う公共交通網への再編と利便性向上

◆ 県南地域における公共交通の利用者数

約 8,898 千人（平成 26 年度）
→ 約 8,898 千人〔現状維持〕～約 9,007 千人（平成 32 年度）

－「長崎県総合計画チャレンジ 2020」の目標年次である平成 32 年度までに、観光客の利用増により、少なくとも人口減少の影響による利用者数の減少（約 297 千人）を補い、さらに利用増（平成 26 年度比で約 101.2%）を目指す。〔「3.8. 公共交通の将来予測」を参照〕

◆ 広域的な路線バス（島鉄バス 6 路線）における実車走行キロあたり利用者数

0.606 人（平成 27 年度） → 0.614 人（平成 32 年度）

－利用者数の増加目標（平成 26 年度比で約 101.2%）に見合う運行効率化を目指す。

※島鉄バス 6 路線：諫早多比良島原線、諫早雲仙島原線、諫早口之津線、島原加津佐線、諫早有家線、雲仙有家線

◆ 広域的な路線バス（島鉄バス 6 路線）の機能の維持に係る運行費補助額

68,240 千円（平成 27 年度）→68,240 千円〔現状維持〕（平成 32 年度）

－行政からの運行費補助の増加を回避し少なくとも現状を維持することを 目指す。

※ なお、平成 34 年度に予定されている九州新幹線西九州ルートと新幹線諫早駅の開業が平成 34 年に予定されており、平成 32 年度に以上の目標値を評価の うえで 2 年間の延長・再設定を検討する。

※ 島原半島観光振興計画は、次の数値指標・目標値・目標年次を掲げており、その達成状況は上述の目標 1 と関連するものとして参照する。

－ 延べ宿泊者数

998,259 人（平成 25 年） → 110 万人〔10%増〕（平成 31 年）

－ 観光消費額

549 億円（平成 25 年） → 604 億円〔10%増〕（平成 31 年）

6.2. 持続可能で安全・安心な運送サービスに向けた設備・体制の整備

◆ 島原鉄道線に係る施設整備計画額の累計

約 2,835 百万円（平成 34 年度）

※ 施設整備に係る 10 ヶ年の計画の終期である平成 35 年度では、
約 3,286 百万円

- ー 鉄道線の老朽施設の更新等を、計画に基づいて着実に実施することを目指す。

◆ 島鉄バスに係るバス車両の更新台数の累計

36 台（平成 29～34 年度）

- ー バス車両で老朽化が限界（車齢 25 年）に達するものの更新等を
着実に実施することを目指す。

◆ 島原鉄道株式会社の鉄道事業の収支改善

鉄道事業の収支改善

※鉄道事業再構築事業の検討

- ー 交通事業者の経営構造を持続可能なものとすることを目指す。